

おなじみの香りは、漢方薬にも重要

シナニッケイ (クスノキ科)

Cinnamomum cassia J. Presl



部位	樹皮又は周皮の一部を除いた樹皮
生薬名	桂皮 (ケイヒ) 日本薬局方収載
成分	ケイヒアルデヒド (フェニルプロパノイド) シンナムタンニンB1 (縮合型タンニン)
薬理	解熱作用、抗アレルギー作用、健胃作用など
薬能	辛温解表薬、通絡 漢方 葛根湯、五苓散など

中国南部からベトナム北部などの原産と考えられる常緑高木。日本では主に温室で育てられ、夏の強い日差しは避けるようにします。葉は長楕円形で、3本の目立つ葉脈（三行脈）は、クスノキ科の特徴でもあります。薬用部位は樹皮で、生薬名を桂皮（ケイヒ）と呼びます。しかし、漢方薬の名前には桂枝茯苓丸や柴胡桂枝湯など「桂枝」とつくものが多いです。本来なら、枝に由来する「桂枝」と樹皮に由来する「桂皮」は区別されて使用すべきなのでしょうが、日本では、これらを区別せずに使用してきました。薬局方も桂皮のみが収載されています。一方、香辛料のシナモンは、香りや味が優れた「セイロンニッケイ (*Cinnamomum verum* J.Presl)」が良品とされています。甘いものと相性が良く、シナモンロールやアップルパイなどは格別の美味しさを引き出します。薬膳でも「辛甘化陽（しんかんかよう）」といわれ、シナモンの辛味と砂糖などの甘味を組み合わせることで、身体を温める効果があるとされています。

ヨロイグサ (セリ科)

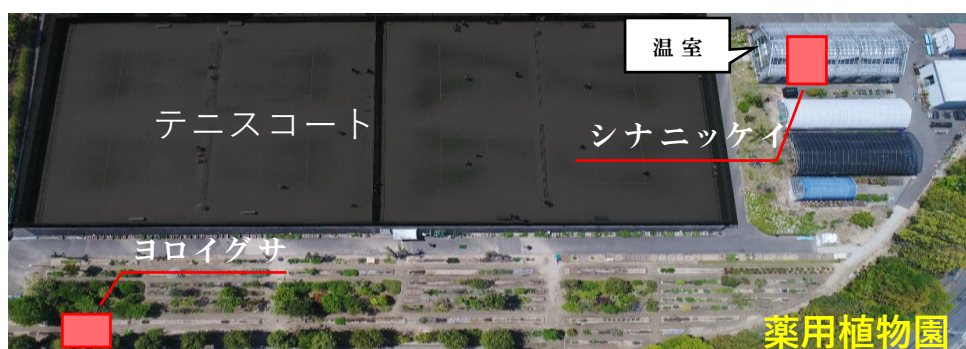
遠くからでも目立つ姿、その佇まいは鎧兜の武者

Angelica dahurica Bentham et Hooker filius ex Franchet et Savatier

部位	根
生薬名	白芷 (ビャクシ) 日本薬局方収載
成分	ビャクアングリコール (フラノクマリン)
薬理	鎮痛作用、抗炎症作用、抗ウイルス作用など
薬能	辛温解表薬、祛風湿、止痛、排膿
漢方	疎経活血湯、荊芥連翹湯、藿香正気散 など



日本（本州～九州）を含む東アジア、北アジア、東南アジアに広く分布する大型の多年草。草丈は3m近くになることもあります。和名の由来は、植物全体の姿が鎧を着た武者に見えることや、葉の鋸歯（葉の縁の切れ込み）の形状が重なり鎧の各部位に似ているためとされています。根を白芷（ビャクシ）と呼び、体内の余分な湿気や腫れを除き、痛みを止める効果を期待して漢方薬に配合されます。華岡青洲の有名な麻酔薬である「通仙散（別名：麻沸散）」にも配合されていました。香りはセロリやトウキに似ているものの、作用は全く異なります。薬用植物園では、同じ *Angelica* (シシウド) 属の仲間として、アシタバやトウキなども栽培・展示しています。



ホームページでも
ご覧いただけます